

幼児教育・保育の質の向上研修ニュース

発行日 平成28年2月20日
 発行者 舞鶴市教育委員会
 舞鶴市健康・子ども部

11月11日 東山保育園 公開保育を実施しました 日本保育学会 課題研究委員会の視察も受けました

今年度5回目の公開保育を東山保育園で実施し、神戸大学大学院准教授北野幸子先生にご指導いただきました。東山保育園での公開保育は3年目となり、子どもの主体性を大切にし、子どもの言葉ややりたい気持ちを起点に保育が展開されている様子や、夢中になって遊び込むための環境作り、保育士の関わり、ドキュメンテーションなど、前回よりも更に変化が見られました。子どもを主体としたプロジェクト型保育について、更に学びを深められ、日々取り組んでおられる様子が伺えました。

また、日本保育学会課題研究委員会の委員による今年度2回目の視察も受けました。「全国的に保育の量的拡大は進んでいるが、質の維持・向上を図るのが今の課題と考えている。舞鶴市の取り組みが、全国モデルとなり、その一助となるのではないか」とのご意見もいただきました。

さらに、公開保育に引き続き、カンファレンス、ドキュメンテーションの研修でも貴重なご意見をいただきました。



参加園/校

永福保育園 余内小学校
 岡田保育園
 さくら保育園
 相愛保育園
 平保育園
 タンポポハウス
 なかすじ保育園
 東山保育園
 ルンビニ保育園
 八雲保育園
 やまもも保育園
 うみべのもり保育所
 中保育所
 西乳児保育所

「問い」と「予測の期待」が保育者の中にあり、そして、保育者と子どもとの相互作用で保育をつくる ～北野先生のコメントより～

<0歳児：ダンボールハウス>

大きなダンボールハウスに小窓を設け、「いないいないばあ」遊びが出来るようにしてある。覗きたくなる良いサイズの小窓から顔を出す、それに応える保育士の姿。

実は以前は子ども達が興味を持つようにと動物を貼ったりしていたが、それを貼ったテープをはがすことに興味がいき、意図した遊びとは違う方向になってしまったと、担任より伺った。

【北野先生より】

◎予測の期待がはずれることがあるのは、そこに保育士の思いがあるから…。予測と異なることを認め、取り入れることが、まさに子どもとの相互作用でもって保育をつくり上げることにつながる。



<2歳児：小麦粉粘土遊び>

床に置いたテーブルの上でこねたり、丸めたり…。グツと力が入るし、また床とも違う絶妙の環境。机ごとに違う色の粘土を配置することで交換が始まる。「固いー柔らかい」「冷たいー温かい」両方が感じられる工夫もある。自分達の採ってきた木の実や畑で作ったピーナツを使ったケーキ。愛着があって更にイメージが広がる。保育士も「誕生日だね」とか「あげるよ」などと応答的に関わり、子どもの言葉や思いに寄り添っていた。

「大人がいても気にせず、2歳児がこんなにも遊びに集中している…子どもが認められ、受け入れられている…幸せそうよかったです」

(課題研究委員会委員：猪熊先生談)



<4、5歳児：木片遊び>

年長児は、木片を釘で打ち付けてモノ作りをしている。色々な長さの釘、ボンド、用途によって使い分けながら最適な道具を選んで使う力が身に付いてきている。それに憧れる年中児の姿。また、年少児は、その木片を並べて線路に見立て、電車ごっこが始まった。同じ素材でも年齢ごとに遊び方が異なる。

【北野先生より】

◎素材が豊か。今日は環境を考えさせられた。

◎今後、物と物をくっつけるだけでなく、のこぎりを使うのもおもしろい。木片・釘+αで、協同的な遊びに発展しよう。



<振り返り>

4、5歳児は15人程のグループに分かれて、今日の保育の中で楽しかったことなどを発表している。

【北野先生より】

◎グループの人数はよいが、他のグループの声が聞こえてしまうのは集中を妨げてしまうのもったいない。

◎個々ではなく、みんなの話題にしていく。

◎年長児になると、協同的な学びができていく時期。何かを深めていくという方向に共感を集めていくことが必要。



公開保育カンファレンス

保育には“キリ”がない、探究してもきれいな課題が保育になる
～北野先生より～

【保育】

◎環境を通した保育には、**記録と環境構成が重要**で、それにはそれ相応の時間を要する。

◎（全員が逆上がりができるようになったという話があったが、）外部講師を頼むよ

り、環境構成の工夫でできるようになる。
◎「**結果だけでなくプロセス**」それが保育の醍醐味。どのようにしてそうなったのか？そこに眼差しを向ける。結果、その方が力がつく。

◎**子どもとの相互作用で保育を作っていく**。子どもを見よう、発達を見ようという姿勢と「問い」が保育者の中にあった。また、「こうなればいい」という「予測の期待」も必要。「**問い**」と「**予測の期待**」を持ち、予測が裏切られると尚うれしいという気持ちで保育に臨む。

◎3、4、5歳児の相互作用を保育者がつなぐ。気づきを促し、誘いかける。

◎指導案の「評価の観点」は、ねらいにしぼって書いてみるとよい。

【ドキュメンテーション】

◎クラスの姿をそれぞれの保育者の視点で見たものをドキュメンテーションにして共有しているから**1人だけど複数の視点で見ている**。思いや価値観を共有する面でもドキュメンテーションは有効。

遊びがつながり、展開が見られたのは、**子どもが主体だからこそだ**と思う。

～日本保育学会 課題研究委員会委員より～

【保育・環境】

◎子ども達が遊びたくなるような素材がたくさんあり、「**子どもがどんなことを楽しいと思っているのか**」を普段からよく見ておられるんだと感じられた。

◎一人の子どもの視点に立ち、その子にとって意味のあるものにしていくことが大切。

◎素材を上手に使っており、3～5歳の環境でのこだわりが見られた。これから「**子ども側から環境を作っていく**」となっていくと、尚、素晴らしい。

【ドキュメンテーション】

◎**ドキュメンテーションの中に考察がある**。浅い深いはあるが、それが**1番勉強になる**。それを保護者に伝えることの大切さ。子どもの興味を理解してもらう手掛かりにもなるし、発達の流れを共有することにも付与する。

◎**ドキュメンテーションも環境も丁寧である**。昨日の保育とつながっている。

【意見交換】

Q1：公開保育をするきっかけ

A：職員の意識を変えていきたいが、どうしたらいいかわからなかった。とにかくやってみよう（園長より）

Q2：3年前とどう変わったか？

A：ドキュメンテーションを書くようになってから、保護者にもわかりやすく伝えるために写真で可視化していくことで、発達や教育的意図などが意識付けられた。そこが1番変わった。公開保育を受ける中で、チームワークを今まで以上に大切に、より良い保育をしていこうという機運が一層高まった。

Q3：自分たちで自然に片付ける姿が印象的。片付け方の工夫は？

A：初めは片付ける場所を細かく区切っていたが、駄目だった。まず、大まかにして

ザッと片付ける。手伝ってくれた子を振り返りの中で取り上げ、初めは言うて欲しいがために片付けていたのが、今は自然な姿になっている。

Q4：悩みは？

A：ドキュメンテーションについても、日々なかなか時間がとれないが、今日したことは今日可視化しとかないうちのうちに振り返るようにしている。時間が無いのが悩みだが、子ども達が変わってきている実感がある。



ドキュメンテーション研修

育ちや学びは何ができたか、わかったかではなく、「やってみよう」という意欲や「知りたい」「わかってうれしい」気持ちを取り上げる
～北野先生コメントより～

今回のドキュメンテーション研修は、前回同様、年齢ごとにグループを作り、1つのドキュメンテーションについてそれぞれが意見を出し合う形で研修を進めました。ワークシートを使い、「きっかけ」「育ち・学び（根拠となる子どもの姿や言葉）」「年齢・発達」「環境」等視点を定めて話し合いを進める中で、より保護者に伝わりやすくするために押さえるべきポイントや、また違った視点で保育を展開していくヒントや気づきを得ることができました。

5歳児のドキュメンテーションは、公開をした東山保育園の事例を取り上げ、検討しました。
◎きっかけ：解体した遊具を大切にしたい保育者の思いと、「なんかつくれそう」の子どもの言葉から始まった活動。
◎保育者の意図：トーンボール作り（表現活動）から、子どもとのやりとりをしていく中で、くぎ打ち遊びへ広がっている。
◎学び：どうしたらまっすぐにくぎが打てるのか考えたり、板の厚さとくぎの長さの

バランスを考えたり、そこには様々な学びがあった。

◎子ども：年長児が年下の子に教える姿があり、保育者が指示しなくても子ども達で活動をすすめる姿がある。

◎環境：「くぎ打ちがしたい」など、保育者が子どもの興味や関心を取り上げながら、環境を整えている。

◎今後の展開：グループで協同して大きなものをつくる。

◎約束事も保育者が決めてしまうのでは

なく、子どもと考えるものよい。



日本保育学会課題研究委員会委員の皆さん